

《担当者名》鎌田樹寛 t.kamada@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

本講義は、DP6に該当する。具体的には、研究とは何かを知り、基本的な研究の知識・手法を学ぶ。また、報告された論文を科学的・合理的な態度での吟味や、研究に関する倫理感を学修し、総じて作業療法に関する基本的な「根拠に基づく合理的思考」を養う。

【学修目標】

一般目標

作業療法に必要な研究についての基本を修得するために、必要な概念や知識および研究倫理について学び、4年次卒業研究に汎用できることを具体的な目標とする。

行動目標

1. 作業療法のart and scienceを説明できる
2. 研究の必要性について説明できる
3. 研究の流れを説明できる
4. 研究目的と意義について説明できる
5. 事実に基づく実践のレベルについて説明できる
6. 論文の構成が説明できる
7. 研究上の疑問(クリティーク・レビュー)について説明できる
8. 平均や尺度に関する知識を説明できる
9. 統計的検定の概略ルール、過誤、検出力について説明できる
10. 倫理的問題点について解釈し配慮の必要性を説明できる
11. 量的研究デザインの立て方や組み方について説明できる
12. 質的研究デザインの立て方や組み方について説明できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 作業療法における研究とは	1. 研究法を学ぶにあたって(理論の基礎知識) 2. 作業療法のart and scienceを学ぶ 3. 研究の必要性について学ぶ	鎌田樹寛
2	研究の過程	1. 研究の流れを学ぶ 2. 研究目的と意義について学ぶ 3. 事実に基づく実践レベルについて学ぶ	鎌田樹寛
3	研究の過程	1. 問いの立て方や研究疑問について学ぶ 2. 論文の構成について学ぶ 3. クリティークや文献レビューについて学ぶ	鎌田樹寛
4	研究の過程	1. 様々な平均に関する知識を学ぶ 2. 尺度に関する知識を学ぶ 3. データの意味に関する事柄を学ぶ	鎌田樹寛
5	研究の過程	1. 統計検定の基本ルールについて学ぶ 2. 上記で生じ得る、エラー(過誤)について学ぶ 3. 適切なサンプルサイズの抽出に通じる基礎知識について学ぶ	鎌田樹寛
6	研究倫理	研究における倫理的問題点の理解や配慮の必要性を学び、演習例から検討する	鎌田樹寛
7	研究手法	量的・質的研究デザインの立て方や組み方について学ぶ	鎌田樹寛
8	研究手法	量的・質的研究デザインの立て方や組み方について学ぶ	鎌田樹寛

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

中間試験 : 第1～3回講義領域範囲から30%
レポート : 第6回(研究倫理)の領域範囲から20%
定期試験 : 第4、5、7、8回講義領域から50%

【教科書】

山田孝 他 著 「作業療法研究法(第2版)」 医学書院 2012年
適宜資料を配布する。

【参考書】

友利幸之介 他 著 「作業で創るエビデンス」 医学書院 2019年
竹田徳則 他 著 「作業療法研究法」 医歯薬出版 2017年
草間悟 著 「勉強・研究・発表の技法」 南江堂 2001年
鎌倉矩子 他 著 「作業療法士のための研究法入門」 三輪書店 1997年

【学修の準備】

- ・予習では、教科書を読み準備すること(80分)。
- ・復習では、講義内容のふりかえりや研究セミナー と関連づけた“ 関心を持った研究論文 ” の検索を行い、熟読すること(80分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP6) 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および作業療法科学の開発を
実践できる能力を身につけている。

【実務経験】

鎌田樹寛(作業療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

臨床経験に基づく研究疑問の生成や研究活動の推進を念頭に行う。